

湖南省農業委員会だより

令和5年1月11日発行

第27号

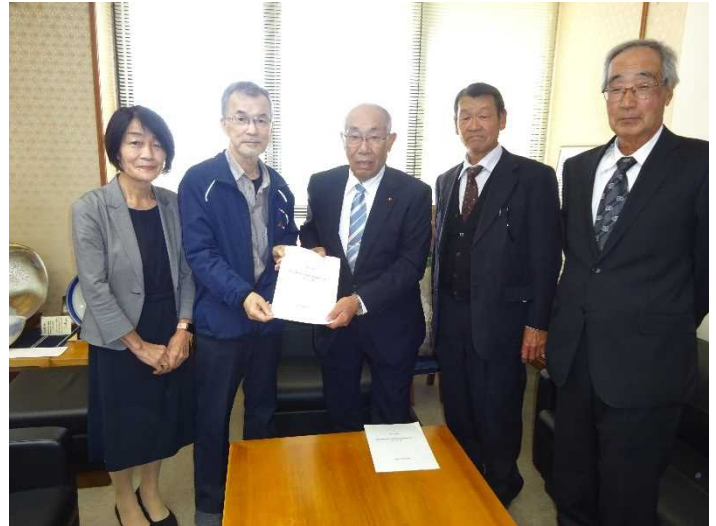
湖南省農業委員会

湖南省中央一丁目1番地

TEL 0748-71-2362

農地利用の最適化に向けて 市長に意見書を提出

令和4年10月25日、「令和5年度湖南省農地等利用最適化推進施策に関する意見書」を湖南省長に提出しました。これは農業委員会法の規定に基づき、農地等利用の最適化を効率的かつ効果的に実施するための必要な施策等について、市に意見書を提出するものです。



我が国の農業経営を取り巻く環境は担い手の不足、農産物の価格の低迷に加えロシアによるウクライナ侵攻や円安によるエネルギー費用や物価の上昇など大変厳しい状況にあります。

湖南省においても離農者の増加、耕作放棄地の発生といった課題が年々増加しています。

については、湖南省の農地利用の最適化と地域農業の発展に向けて、以下のとおり意見書を提出しました。

～意見書の主な内容～

1 遊休農地の発生防止・解消について

- ・遊休農地の実態と発生防止・解消対策
(農地の適正管理と効率的な利用の確保、遊休化の未然防止に向けた対策など)
- ・一団化した遊休農地の活用対策
- ・農地中間管理機構による遊休農地対策
- ・有害鳥獣の被害防止対策

2 担い手への農地利用の集積・集約化について

- ・担い手対策と集落営農法人の運営
- ・「地域計画（人・農地プラン）」の策定及び見直しの推進
- ・農地中間管理機構等への集積（中間管理事業や利用権設定制度の周知など）
- ・農地の基盤整備の推進（ほ場の大区画化と優良農地の確保、老朽化する農業用水路施設の改修整備など）

3 新規参入の促進について

（新たな担い手の確保、認定農業者等の担い手育成に関する支援策など）



↑ 農地パトロールの様子

※意見書の詳細は市ホームページをご覧ください。

農業委員の活躍をご紹介します！

湖南省下田小学校 5 年生の児童 63 人は同市下田の日枝神社の「神撰献穀田」6R を学習田として春に田起こしを行い、もち米の「滋賀羽二重糯」を5月に手植えをしました。

10 月上旬の稲刈り体験では湖南省農業委員の上西 一嗣委員と地元のボランティア約 20 名が鎌の安全な使い方や稲の刈り方、足踏み式脱穀機を使った脱穀の仕方などを説明しました。「農業の苦労と努力を感じて食への感謝の気持ちを持ってもらい地域の人と交流すること」を目的に毎年実施しているものです。

10 月中旬にはレンゲソウの種まきをしました。児童は、「レンゲソウの種をまき、春に花が咲いたら肥料としてすき込むことで土を肥やし、次の田植えに備える」との説明を聞き、6 キログラムの種をまきました。



↑レンゲソウの種まきの様子

更に10月下旬、5年生児童代表の8名が日枝神社に自分達が育てたお米を奉納。同市下田地区では約90年前からもち米を神社の縁の深い「高松宮家（旧有栖川宮）」へ寄進しています。近年は児童たちが育てたもち米を神社の総代が郵送していますが児童らが話し合い、「寄進されるもち米を自分たちの手で奉納し、地域にお返ししたい」との希望が実現しました。



↑神社奉納の様子

11 月中旬には「5 年生収穫の集い」が同校の体育館で開催された。児童たちが考えた企画でボランティアの代表 8 名が招待され、1 年間の体験学習の協力いただいた方へのお礼や、学んだ事をクイズにして楽しみました。

上西委員は「田んぼの体験学習を通じて地域の歴史や文化を学び、昔の人の米作りの苦労を感じ、食べ物大切さをより感じてもらえれば」と話していました。